

協働事業評価書（モデル事業：自由部門）

基本項目

事業名	放置竹林対策
受託団体	NPO法人しずおか環境教育研究会（エコエデュ）
委託金額	¥497,000-
目的	<p>市民活動と行政の協働を進める際のノウハウを得るモデル事業として、里山の放置竹林対策に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源としての竹林の活用方法の開発</li> <li>・ 竹林対策を担うボランティア養成のノウハウ取得</li> <li>・ 竹林の伐採による景観改善</li> </ul>
内容	<p>放置竹林対策にかかる上記の目的に合わせて3種の実証実験を行なう。</p> <p>第1回： 伐採した竹の破砕、堆肥化実験  日 時 平成16年10月13日（水）9:00-17:00  会 場 市民たけのこ農園、国産材加工事業協同組合（共に清水和田島）  参加者 一般参加者60名  内 容 別紙</p> <p>第2回： ボランティア養成講座  講 師 NPO法人しずおか環境教育研究会スタッフ  日 時 平成16年11月28日（日）9:30-12:00  会 場 谷津山山麓（静岡市沓谷）  参加者 市民ボランティア23名  内 容 別紙</p> <p>第3回： 皆伐による景観改善実験  日 時 平成16年12月1日（水）9:00-15:30  日 時 平成16年12月2日（木）9:00-15:30  日 時 平成16年12月3日（金）9:00-12:00  会 場 谷津山山麓（静岡市沓谷）  参加者 各回15名程度のスタッフで対応  内 容 別紙</p>
成果	<p>チップ化実演により竹材の新たな利用法の認識が深まった。</p> <p>竹伐採指導者のさらなる竹に関する知識と技術が高まった。</p> <p>市民ボランティアと行政、地権者との連携が取れた。</p> <p>谷津山再生への糸口がつかめた。</p> <p>市民の自然環境改善に寄与できた。</p>

評価項目

1. 仕様書記載の事業内容は適正に実施したか？（開催回数、日数、会場、講師選定など）

適正に実施した

おおむね適正に実施した

適正に実施できなかった部分もあった

適正に実施できなかった

【コメント】

伐採場所の変更などがあったが、他は計画通り実施できた。

2. 仕様書記載の事業内容を実施した結果、見込みどおりの結果を得られたか？

見込みどおりの結果を得られた

おおむね見込みどおりの結果を得られた

見込みどおりの結果をあまり得られなかった

見込みどおりの結果を得られなかった

【コメント】

チップ化実演では、堆肥化の効果までの実証はできなかったが、多くの農業関係者等が参加し、啓発に資することはできたと思う。

ボランティア養成では、地元からの参加者の啓発につなげることができた。また、安全対策の見直しなども確認できた。

皆伐による景観改善については、当初の企画提案の本旨だったが、チップ化実演とボランティア養成に事業が分割されたため規模が小さくなり成果も限定的だった。

3. 1,2の結果、当初の目的を達成できたか？

当初の目的を達成できた

おおむね当初の目的を達成できた

当初の目的をあまり達成できなかった

当初の目的を達成できなかった

【コメント】

多くの事業を盛り込んだため、一つ一つの事業規模が小さくなり成果が限定的になったきらいがあるが、全体としては、当初の目的を達成できたと思う。

4. 協働だからこそ、得られた成果があったか？

協働だからこそその成果が得られた

協働だからこそその成果が少しは得られた

協働だからこそその成果は得られなかった

【コメント】

行政側の直接の協働パートナーである農林総務課および市民生活課と、エコエデュの連携は良好だった。

当初提案のあった「谷津山」における放任竹林対策は、農林サイドだけでなく都市計画や公園緑地との関連性が深いが、市行政の内部的に横の連携がなかった。しかし、この事業を機に行政内部および地元組織等、関係者の連携を構築しようという機運が盛り上がりつつある。